

古事記を読む会 32号 (2017, 9, 3)



皆様、夏を楽しみましたか？私はお盆が忙しかったので、今ホッとしています。この頃、朝夕が涼しく感じられ、家では鈴虫が鳴いています。

イズミさんには、「コトダマの世界Ⅱ」をこの程刊行されました。おめでとうございます。

さて、今回は、イズミさんから『「ヤ」〔矢・屋・谷・哉〕の系譜』についてお話ししていただきました。「コトダマの世界Ⅱ」の最終節を参考にしながら、ご紹介します。是非本文をお読み下さい。分かりやすく解説され、ヤマトの語源や万葉歌があり、神通川の名が出るなど、私は、大変楽しく読ませていただきました。

イズミさんのご提案は、言葉の由来は音であらわされると新聞記事にもありますが、音で事物の姿を現すとの考えを、例を挙げていくつも検証されています。今回ヤ行音の戸籍調べということで、お話がありました。

「ヤ」(感動)・・・当時の先進的な生産利器であった矢が、飛んでいく姿を見ての感動。

ヤ(屋・舎)・・・建造物としての家。とりわけ屋根の意味。矢を組合せることでテント状のヤ(屋・舎)ができる。

ヤ(矢・箭)・・・矢。矢がら・はず・羽・鏃の部分からなる。ヤという音形はもとヤジリの機能に注目した言葉。 やーと走って刺さって、獲物を得た。やー 凄い。

「ヤマト」の語源

ヤマ+ト ① 山 山岳 ②採木地 ③墳墓 ヤマは狩りをし、木を切る所であり、山の幸の有る所といった意味と思われる。さて、さらに(ヤ+マ)を分析してみると、ヤのマ : 矢の間・・・矢(山の幸をウム)間 と考える。

飛ぶや鳥の詩

詠嘆の助詞としてヤが多用されます。このヤは、もともと「矢」でなかろうか？

天平勝宝4年(763)4月 東大寺大仏開眼供養会の際、元興寺からの献歌。

ミナモト(水源)の ノリ(法)の興りし トブヤトリ 飛鳥の寺 の 歌献る

飛鳥にかかる枕詞は 「飛ぶ鳥の」が普通であるが、ここではトブヤトリとなっている。

ヤトリは、矢鳥。仏教布教のために宇宙をかけるヤトリル(矢鳥)と解釈されます。

ヤ(谷)の用例

地名で、市ヶ谷 世田谷 日比谷 小千谷 四谷等、ヤと発音するものがあります。

これはヤ(矢)=タニ(谷)と意識されたと考えられるものが多数あります。

矢が走る姿が地形ノ谷をイメージするということです。神通川の上流の宮川も御矢川だったかもしれない。川が急流で流れる姿が矢のようだった。ヤマトコトバのミヤガワを時代の流行にあわせて漢語風にしたのが神通川ではないかと思われます。

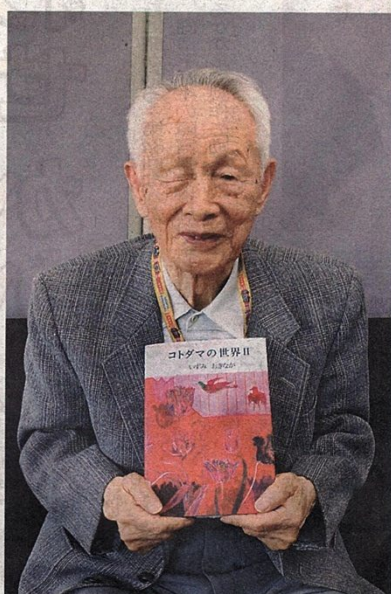
今後の予定

9月3日 藤田先生の第2回目講演 「三輪山の祭祀をめぐる」

10月1日、 11月5日、 12月3日、年内はあと3回です。

日本中国語教育学会名誉会員の泉興長さん(97)＝富山市砂町＝が、新著「コトダマの世界Ⅱ」を桂書房から刊行した。1991年に出版した著書の続編で、日本語と漢語、英語の音の響きを比較し、言葉の由来を分析した。泉さんは「言葉は文字だけでなく、音があってこそ成り立っている」と話している。

富山の泉さん「コトダマの世界Ⅱ」刊行



「言葉は人の心を打つ鉄砲玉の様なもの」と話す泉さん

3言語の響き比較

泉さんは1920年北海道旭川市生まれ。東京外語大の前身、東京外国語学校で中国語を学び、卒業後は満洲の鉄道会社、華北交通へ入社した。戦後には帰国し、富山県内の中学や高校、専門学校で教師を務めた。

泉さんは、言葉にとって、文字以上に音が大切だという考え方を提唱し、50年近く研究を続けている。新著では、導く漢字で同じ読み方をする「屋」「矢」「谷」などを例に挙げ、言葉に込められた本来の意味を解説する。

日本の国語教育は文法が中心で、中国の子どもは、最初にローマ字を学び、その後漢字の発音を覚えていくという。泉さんは「聞く力や話す力を強化するのなら、音を考えることが重要。多くの人が日本語教育を考え直すきっかけになればいい」と話した。

表紙は、砺波市の洋画家で、北日本新聞砺波支社カルチャー教室で「水彩・油彩」講座を持つ佐藤美美さんが担当した。

言葉の由来音で解説